

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和3年 学校教育だより

September **9** 第350号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



わあ～きれい！ 一忍野八海 5年生林間学校一

写真提供／鶴瀬小学校

将来

富士見特別支援学校 高一
植波 結斗

高校生になって少しだけ
将来の形が見えてきた

社会人になって

いじめにあわないか

仕事がうまくできるか

いろいろ不安はあるけれど

スマホを買いたい

一人暮らしをしたい

会社内に友達を作りたい

という目標がある

だから

高校生活の三年間で

もっともっと自信をつけたい

た道徳の展開

指導者 本郷中学校 教諭 大島 吾一

人とつながり、自分を見つめる
ことのできる道徳教育

本校では、昨年度から、「自己を見つめ、よりよい生き方を考えることができる心豊かな生徒の育成」を主題とし、考え、議論する道徳“の授業について研究に取り組んでいます。本校では以前から学年内で道徳科の時間割を揃え、教材及び指導法を共有し着実な授業の実施を行うとともに、人と人とのつながりを大切に、自分自身を見つめることのできる授業に努めています。

そして、今年度からGIGAスクール構想として、一人一台の学習用端末を配備していただきました。ICT環境を活用し、生徒一人一人が自分の生き方について考えを深める道徳科の授業を展開できるように取り組んでいます。ここではその取組と考察について紹介します。

教材の提示

授業の導入では、教室前方に設置されている大型モニターに提示しています。ある授業では、まど・みちおさんの詩「ノミ」を画面に出すことで、クラスの全生徒の視線が一つに集まり、これから同じ課題について考えていくという雰囲気をつくり出すことができます。また、教材の物語の登場人物紹介なども前方モニターに示し、教材への理解を深められるようにしています。また、アンケート結果などを提示するときにも役立てて

西中学校 3年

西谷 莉菜



今年の体育祭はコロナ禍での開催となりました。中学校生活最後の体育祭であり、出場種目や応援の練習など「今年で最後なんだ。」と1日1日を無駄にせず一生懸命取り組んでいきました。本番が近づくと仲間との絆が深まり、「早く体育祭をやりたい。」と

体育祭の思い出

いう気持ちと、「仲間と過ごす時間が終わって欲しくない。」と願う気持ちが入り乱れた事を覚えています。そしていよいよ本番。練習どおり力を発揮出来た人もそうでない人もいたかもしれませんが、皆が一つの目標に向かって頑張りました。私の団は優勝する事ができ、一生忘れられない思い出が出来ました。

皆有難う。感謝！



ワークシートの共有

タブレット端末のアプリ「ミライシード」の「ムーブノート」機能を使い、個人のワークシートに記入した内容を撮影し送信することでクラス内の考えを共有することができます。提出したワークシートの画像は生徒が自由に閲覧することができ、班活動といった席の近い人や普段からよく話す人だけでなく、席から離れている人、日頃はあまり話すことのない人など、クラス全体の多様な考え方・感じ

全体指導の際の活用

生徒がより深く考えるツールとして、「ミライシード」の画面共有機能を活用します。

方に触れることができます。実際に「ムーブノート」を使用して感じたのは、個人の端末があることで、自分のペースでじっくりとクラスメイトの考えを見ることができるということです。この一人一人が集中できる時間を確保することで、生徒が自分と向き合い、考えを深めることができます。

わかる授業 二 中学校 道德教育 二

ICTを活用し

提出された生徒の意見の中から考えを深めるきっかけとなるものをピックアップし、クラス全員の端末に表示します。その結果、多くの生徒が考えるポイントについて理解することができ、話し合いをスムーズに進めることができます。

同じ画面を見て課題について全員で考える場面と、先述した個人で端末を開き自身で考えを深める場面とを、活動に応じて使い分けることで、より効果的にICTを活用して考えを深めることができると思います。



一人一台の端末を使用し
さらなる効果的な使用のために

特別支援教育

誰もが過ごしやすい学校へ

勝瀬中学校 梶山 真理子

勝瀬中学校では、配慮が必要な子どもも、そうでない子どもも、互いを思いやりながら生活できる学校を目指して特別支援教育を進めています。本校では次の二つのことを行っています。

一つ目は「環境のユニバーサルデザイン」です。教室前面をシンプルにデザインし生徒が授業に集中しやすいようにしています。その他にも、教室後方の黒板

にホワイトボードを貼り、教科係が提出物等の連絡を書いてわかりやすくしています。

二つ目は「子どもたちの交流」です。私のクラスにはやぶさ学級の生徒が在籍しています。先日の体育祭では「台風の目」にクラスのみならず一緒に参加しました。まわりの子どもたちが「走るよ!」「ここでジャンプするよ!」と教え、

上手にできた時は一緒に喜びながら練習していました。心を一つに成果を出すことができました。クラスのみならず学級の子どもにとっても、良い思い出になり、互いのことを思いやる経験になったと思います。

他者との関わりを意図的に増やすことで、自然と「子どもたちの心が育つ」ようになると思っております。勝瀬中学校の全員が、優しさを持つ人に育ってほしいと願っています。



道德科の授業を行っていく中で、注意すべき点がいくつかあります。一つは、生徒の集中を途切れさせないということですが、次にワークスペースの確保です。さらに、グループ化やグラフの提示などを授業展開する中でスムーズに行うことができるように教師のICTのスキルアップの必要性も感じています。

終わりに

ここまで本校でのICTを活用した道德科の実践を述べてきましたが、一人一台端末という恵まれた環境の中で、端末を学びのツールとして効果的に使用できている生徒の順応性には驚かされました。

そして、やはり道德科の授業で必要なのは人と人とのつながりであると再認識できました。ICTを活用することによって効率的、効果的な授業展開ができましたが、グループで話し合ったり、顔を合わせプリントを回覧したりするときの生徒の生き生きとした表情が印象的です。今後も、従

来の方法とICTを用いた方法を効果的に組み合わせ、生徒とともにわかる道德科の授業をつくっていききたいと思えます。



指導・講評

本郷中学校長 上堀 護

本校では、研修主任と道德教育推進教師(大島教諭)が中心となって全職員で研究に取り組んでいます。今年度は教頭の指導を受けながら、生徒一人一台端末をコミュニケーションツールとして最大限活用し、「考え議論する道德」を進めています。

若手の活躍に大いに期待しています。

協働学習に向けた取り組みと期待

針ヶ谷小学校 保護者 安田 求

生まれて初めて靴を履いたものの、どうしたらよいか分からず立ちすくんでいた娘。そんな彼女もこの春から小学生。

遊びや生活の中で生きる力の基礎を育んだ幼児期の教育から、社会に出てからも生かせる知識や経験を積む教育へ、これからは協働して物事を成し遂げること、つまり、コミュニケーション力がより重視されると考え、四つの視点をもって私は娘と接しています。一つ目は子どもの目線に取

てあわせずに会話をすること。二つ目は物事の決定を彼女自身にさせること。三つ目は学校での出来事を一緒に話すこと。最後にお友達との遊びを沢山すること。この四つが大切だと考えています。子どもの目線にあわせないと話をすると、分からないことを沢山質問されますが、どう解らないかを私達に説明する力が養われます。決定を自身にさせることで、主体的に

物事を考える癖ができます。今日あったことの説明は、言葉で表現する力を伸ばすことができます。また遊びの中でお友達とお話ししながら物事を進めてくことで、協働学習の基礎を学ぶことができます。

そして、これからの小学校生活では、友達と考えや思いを交わし、物事を進めていく経験を沢山してほしいです。あの子はどうしてこう考えるのか、どうすればよい方向に進むのか。意見が異なる時に彼女はどうか乗り越えるのか。沢山の経験を積み、深く他者を理解できるようになってほしい。そう私は考えています。



ICTを文房具に

勝瀬中学校

昨年度から、本校ではICTの導入に向けて準備を進めてきました。コロナ禍の中、三年生を送る会もTeamsを用いて、体育館の様子をリアルタイムで視聴し、先輩の思い、後輩からの思いを共有することができました。また、玄関にモニターを設置しており、本校の生徒が活躍している様子や、予定などが見やすく提示され、評判もよいです。今年度に入って研修も増え、

様々な場面でICTを活用することが増えてきました。授業ではプレゼンテーションなどの資料を手元で見たり、考えを深めるときや、意見共有課題の配布に端末を使用した工夫がなされ、とても活発に、そして身近なものになってきています。まだまだ試行錯誤が続きますが、いろいろな可能性を探って、使い方を工夫していきたいです。

たいです。



地域で子育て 褒めて育てる大切さを実感

勝瀬小学校 保護者 三島 万奈

我が家には2人の息子と娘がおり、親子で付き合える同世代のご近所友達に恵まれて、賑やかな日々を送っています。

そんな中、突然訪れた昨年度の臨時休校。どこにも行けず、思うように遊べない子どもたちにとって救いだったのが、近所との関わりでした。核家族化が進む現代で、皆が皆家にいるのが当たり前、そんな環境はこのコロナ禍でなければ実現しなかったと思

います。何となく外に出た年齢もバラバラな子どもたちが、限られたスペースで遊ぶ、もちろんルールの中で。でも私は厳しいルールは設けず、取っ手なしにしました。ダメと言うのは簡単ですが、「自分たちで考え判断してほしい」そうすることで生きる力を皆で育んでほしいと思ったからです。そのため親以外の大人から

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

叱られる事も時にありました。子どもたちで「いい塩梅」を模索し、上級生や下級生との関わりも学んだ日々でした。中でも印象的だったのは「〇君のお父さんが『すごいね』って言ってくれたよ」と褒めてもらえた事を嬉しそうに報告してくれたことです。まさに地域で子どもを褒め育てる、そんな心強さを肌で感じる事ができました。

地域との深い繋がりは、頼れる大人や友達が周りにいるという安心感となって子どもたちの生きる力になると信じ



ふじみ野小 ロボットと未来研究所

ふじみ野小学校

本校では、STEM教育を充実させるため、様々な取り組みを実践しています。STEMとは、科学、技術、工学、E M とは、科学、技術、工学、から高学年までスクラッチなど数学の教育分野を総称した言葉です。

昨年年度からレゴブロックを使ったプログラミング学習に取り組んでいます。レゴブロックで物を作り、パソコン上で動き方などを考え、実行します。このことからプログラミングの方法、特性などを理



ています。そして、自分が大きくなった時に、今度は周りの子どもたちにそんな力を与えられる大人になってほしいと願っています。



教育課題特集

生きる力を

用し、学びを深めています。STEM教育がねらいとしているところは自発性、創造性、判断力、問題解決力を養うことにあります。普段の授業においてICT機器を活用していくことを通して、このような能力を高められるようにしていきたいと思えます。

地域の中で

南畑小学校
学校応援団コーディネーター

秋元 節子

「あそび隊、たのしみにしてるよ。」と声をかけてくれる子がいる。コロナ禍で、今はお休み中の地域子ども教室。毎週月曜日に子どもたちと遊ぶようになって十五年ほど経つ。そのお陰で、子どもたちの顔と名前がわかるようになり、どの子もかわいくなっていかない。

六年間、ずっと私のそばから離れず、いつも手をつないでいた男の子がいた。今は立派な中学生だ。本屋ではつたり会って声をかけてくれた女の子は、嬉しそうに部活のことを話してくれた。以前より目が輝いていて嬉しかった。

また、私が気が付かないくらい綺麗になった子たちに声をかけられ、名前を聞いて「あー、久しぶり。」と気づくこともあった。

たくさん子どもたちが成長していく姿を見守っていくことができるなんて、とても幸せに思う。

私にできることは、ときに寄り添ってみたり、そっと見守っていたりすることぐらい

だけれど、いつまでも、みんなのことを応援していきたい。楽しい思い出は、形こそないけれど、いつか子どもたちの心の中で宝物になっていく、たくさんの人と関わりながら、楽しい思い出が出来ますように。

子どもの成長は早いもので我が家の息子は三十才に。結婚を機に家を出たのだが、近頃、実家に戻る計画を立てているとのこと。心の中で、私はそれを待っていた。

いつでも帰っておいでね。地域の人も「おかえり」と言ってくれるから。





みずほ台小

2年振りの開催！！「みずほハッピーワールド」

2年振りに、みずほハッピーワールドが開かれました。感染予防の約束を守りながら、楽しい時間を過ごしました。

まだ、残暑厳しい日が続く中、一年間で一番長い二学期が始まりました。二学期は、運動会や音楽会など行事が盛りだくさんの学期です。コロナ禍での生活になるので、今後も学校において手洗い・うがいの励行など、感染対策を徹底し、子どもたちが安全に過ごせるように努めていきます。また、生徒一人一台端末を効果的に、授業で活用してまいります。コロナ禍で以前のように、地域そして、保護者の方に学校へ足を運んでいただく機会が少ない分、この学校TODAYで子ども達の生き生きとした姿をお伝えしていきたいと思えます。



西中



富士見市聖火リレーセレモニー

東京オリンピック聖火リレーのセレモニーで吹奏楽部が参加しました。大舞台上で演奏を披露しました。

関沢小



工夫を凝らして、withコロナの運動会

今年は3部に分けて運動会を行いました。ライブビューイングも行い、各教室から競技の様子を見ることができました。



諏訪小

「凡事徹底」諏訪小学校の合言葉

当たり前のことを当たり前。「凡事徹底」を合言葉にしています。あいさつや清掃ができている児童は校長先生から表彰されます。

大人も読みたい子どもの本

富士見市立中央図書館 伊藤由紀子

コロナ禍となり、ピブリオバトルがでなくなつて一年半が過ぎました。もしも、ピブリオバトルができたなら、バトルとして紹介したい本を書きたいと思っています。

小学校低学年へは、『はるとあき』（斎藤倫・うきまる / 作 小学館）です。

四季を擬人化した絵本で、あきに会ったことのないはるが、手紙を書くことを思いつくところから始まる物語です。春と秋の往復書簡を通して、季節の素晴らしさや相手を思いやる心など、たくさんの気づきをくれる本です。

中学年へは、『しあわせなハリネズミ』（藤野恵美 / 作 講談社）です。友だちがいなくても一人で平気なハリネズミ。思ったことをすぐに口に出してしまつて、言葉もチクチクしています。そんなハリネズミが、ある日何の役にも立たないドロダングを作るモグラと出会うことで、物語の捉え方考え方が変わり成長していく物語です。

誰かと関わることは、面倒なことも増えるけれど、ひとりであるより、楽しいことや幸せなことも増えると教えてくれる本です。

高学年から中学生へは、『西の魔女が死んだ』（梨木香歩 / 著 小学館）です。中学校へ入ったばかりのまいは、周りに



東
中

勝利に向かって駆け抜けろ！

今年の体育祭も縮小され、午前中だけの開催となりましたが、その分、どの団も集中し、勝利に向かって一丸となることができました。



針
ヶ
谷
小

野さいづくりのひみつをさぐる

ゲストティーチャーを招いて、農家のお仕事についてお話を聞き、作っている方の思いを学ぶことができました。



水
谷
東
小

伝えよう。クラスの雰囲気！

体育館で、オンライン授業参観を行いました。クラス全員が映るように、カメラワークを工夫しました。



勝
瀬
小

クラス対抗ドッジボール大会

本校ではクラス対抗でドッジボール大会を行っています。クラスの団結を高めるために、朝会でクラスのいきごみを発表して、大会に臨みます。



勝
瀬
中

「勝瀬中ミニギャラリー」

職員室前の一角にあり、美術展入選作品等が展示されています。各々個性あふれる作品がライトに照らされ、堂々たるたたずまいです。

なじめず学校へ行くことができなくなっ
てしまいます。そんな自分のことを「感
受性の強いあつかいづらい子」と母親が
電話で話しているのを聞いて、もつと傷
ついてしまいます。まいは、早めの夏休
みということで、大好きなおばあちゃん
の家へエスケープします。イギリス人の
おばあちゃんは、魔女修行と称して、毎
日色々なことを教えてくれます。おばあ
ちゃんは、どんなまいも、まるごと受け
とめてくれます。

自分のことをわかってくれる誰かが一
人でもいれば、人は強くなれるし、立ち
直ることができると思わせてくれる本で
す。そして最後の答えは自分で決めるこ
との大切さを教えてくれます。大好きな
この本を、今から二年前に諏訪小学校の
図書委員さんの前で、バトラーとして発
表しました。発表の五分間はとて緊張
しましたが、みんな真剣に聞いてくれて、
チャンプ本に選ばれた思い出の本でもあ
ります。その時のみんなも今は中学二、
三年生です。みんなは、どんな中学校生
活を送っているでしょうか。

人生は、いろいろなことが起こります。
すぐれた児童文学は「生きてごらん大丈
夫」と背中を押してくれます。昔、子ど
もだった大人もです。是非、そんな本と
出会えますように。そのお手伝いのでき
ることが図書館で働く私の一番の喜びで
す。

